

科目コード	3G517		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアマネジメント入門Ⅰ		担当者名	横内 浩平			○		
			実務経験との関連	担当者の中で民間教育機関（公務員予備校等）教員としての実務経験がある教員が進路選択、キャリアプランなどについて指導する。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

将来のキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな社会の出来事について理解しておく必要がある。本科目では、将来公務員を目指す学生が政治や経済の知識を身に付け、将来の就職試験に備えることを目的として開講する。

<授業の到達目標>

1. 公務員試験における「頻出分野」の政治・経済分野について基礎的な理解ができるようになる。¥n 2. 採用試験に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

<授業の方法>

1. 講義（配布プリント、パワーポイントを使用し授業を進める）¥n ※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト 35%、授業態度 15%

<教科書>

得になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	政治(1)	民主政治の基本原理
3	政治(2)	日本国憲法の基本的性格
4	政治(3)	基本的人権の保障(1)
5	政治(4)	基本的人権の保障(2)
6	政治(5)	基本的人権の保障(3)
7	政治(6)	各国の政治制度(1)
8	政治(7)	各国の政治制度(2)
9	政治(8)	国会(1)
10	政治(9)	国会(2)
11	政治(10)	内閣
12	政治(11)	裁判所(1)
13	政治(12)	裁判所(2)
14	政治(13)	地方自治

科目コード	38200	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	保健体育科指導法 I (基礎) [PP,FE,FC]	担当者名	久田 孝			○			
		実務経験との関連	高等学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、教科「保健体育」を中心とした学校体育の諸活動を対象に、その教育方法上の原理を明らかにする学問であり、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。自分の経験を振り返り、自らの思考の枠組みをくずしながら、学習指導要領をもとに、最新の保健体育科教育の方向性について理解し、『21世紀の学校体育の在り方』を探究していく。

<授業の到達目標>

1. 保健体育科の基礎的知識を習得し、学習指導要領に示された意義や目標・内容を理解することが出来る。2. 学校体育における今日的課題を整理し、これからの学校体育の在り方について考察を深め、論理的に言語化することができる。3. 積極的に事前・事後学習・レポートに取り組むことができる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・質疑応答） 2. 省察活動（まとめと振り返り） 3. 協働的活動とディスカッション 4. 資料の提示や課題の提示、提出等はGoogleclassroomで行う。また、確認テストは主にGoogleformを用いて実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト30%、期末試験60%、授業への取り組み10%で総合的に評価する。小テスト・定期試験では、保健体育科の基礎的知識や学習指導要領に示された意義や目標・内容についての理解度を評価する共に、授業中の意欲的態度、課題の遂行度を評価する。レポートは、授業内で扱われた理論を自分の中で再構築して適切に論述しているものを評価する。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月）「学校学習指導要領解説—保健体育編—」東山書房

高橋健夫他（2010）体育科教育学入門大修館書店

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方
2	保健体育科教育学で何を学ぶのか	授業の構造と教師の役割
3	保健体育とはどのような教科なのか	体育の持つ特異性と危険性
4	学校制度と保健体育科	学習指導要領の歴史的変遷と社会的背景
5	今、保健体育科に求められているもの	保健体育科の今日的課題と方向性
6	保健体育科で育みたい資質・能力	学習指導要領における保健体育科の目標の検討
7	体育の学習内容とは	運動の特性と分類
8	体育における教材と学習内容をめぐる議論	運動という文化の構成要素
9	体育のカリキュラム	年間指導計画の事例検討
10	体育の目標と内容の関係	体育の学習内容の捉え方による相違点
11	体育の授業づくりと動機づけ	自己決定論、子どもの自発性と教師の指導性
12	体育の学習形態・評価	学習形態の類型・学習評価の現状と課題
13	保健体育科の内容構成	学習指導要領における分野・領域
14	まとめ	これからの保健体育授業を考える

科目コード	25100	区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	体育原理 [PP用]	担当者名	早田 剛			○			
		実務経験との関連	医療機器製造業会社での研究開発者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

体育原理とは、体育の本質的追求である。また、よい体育とは何かを明らかにし、それを発展させるには何が問題であるかを科学的法則に基づいて、その原理を示す役割を持っている。本講義では、体育・スポーツの発生の契機、社会におけるその定着の歴史的な過程、その展開を平和的に管理するルールの特質、さらには現代社会におけるスポーツのあり方等を検討することにより、体育を重要な教材として取り入れる体育教育の今日的意味を再確認する。

<授業の到達目標>

体育・スポーツの基礎概念について考えていくことにより、体育学・スポーツ科学を専門的に学ぶための基礎的知識を身につけるとともに、体育・スポーツを批判的に検討できる能力・思考の育成を目指す。

<授業の方法>

授業の流れ¥n 1. 予習課題の確認 (約10分) ¥n 2. テーマに沿った解説と問いの提示① (約10分) ¥n 3. 意見交換：上記テーマに即した意見提出とディスカッション (約30分) ¥n 4. テーマに沿った解説と問いの提示② (約10分) ¥n 5. グループ発表および聴講 (約30分) ¥n 6. 課題レポート作成 (約10分) ¥n 次週課題の確認 (⇒自宅学習：約30~60分)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

予習課題：10%、意見交換：20%、発表：30%、授業後レポート：20%、※最終レポート：20%として、総合的に評価する。

<教科書>

B5判/218ページ(令和4年度発行版) ¥n <https://www.taishukan.co.jp/hotai/high/product/?type=textbook&id=59>現代高等保健体育 保体「701」(ISBN:9784469663198)大修館書店

友添秀則、岡出美則 編(2016年)教養としての体育原理大修館書店

<参考書>

高橋 徹 編(2021年)はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学サンメッセ株式会社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	体育原理とは	1) ガイダンスとして、授業概要を確認する¥n 2) 体育とは何か、体育の理念はどう変わってきたかを学び、自分の意見を検討する。体育学科を卒業する意味を検討する
2	体育とスポーツは何が違うのか	体育とスポーツの混同と混用について学び、自分の意見を検討する
3	身体からみた体育の可能性	学校教育と身体教育について育てるべき「身体」を考え、(できる)とはどういうことかを検討する
4	体育で競争をどう位置付けるか	体育における競争とはどういう位置付けるかを学び、自分の意見を検討する
5	体育における人間形成	体育における人間形成とはどういう意味かを学び、自分の意見を検討する
6	体育と指導者	体育教師とコーチは何が違うのかを学び、自分の意見を検討する
7	スポーツと科学	スポーツ科学は、様々な情報(データ)に基づいて、スポーツ活動を充実させるためのアイデアを提供する学問分野を理解し、活用方法についての自分の意見を検討する
8	運動部活動の意義と課題	運動部活動の意義と課題を学び、自分の意見を検討する
9	プレイが生み出す体育の可能性	スポーツとプレイ(遊び)について学び、自分の意見を検討する
10	スポーツとルール	ルールの正しい「解釈」が必要であることを理解し、自分の意見を検討する
11	スポーツと文化	身体に文化を伝承するプロセスについて、教育的な行為との関係から学び、自分の意見を検討する
12	スポーツとビジネス	スポーツにおけるビジネス化の構造やそれを牽引する仕組みについて理解を深めるとともに、課題について検討する
13	スポーツと社会	スポーツ需要の質的变化に対して、その課題を解決を促す新たな体育・スポーツ需要を検討する
14	スポーツとコミュニティ¥nまとめ	1) スポーツとコミュニティを取り巻く現状と課題について理解を深め、地域づくりなどについて検討する¥n 2) 体育原理を総括する

科目コード	25103	区分	専門基礎科目	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	発育と発達	担当者名	田中 耕作	○					
		実務経験との関連	民間会社（スポーツ科学企業）・専門学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、幼少年期における身体の形態や機能が変わっていく発育と発達と老化についての基礎的知識を習得することを目的とする。

<授業の到達目標>

発育・発達および老化に関する基礎理論を理解し、説明できる。各発達段階における体力・運動能力の特徴を整理し、具体的に示すことができる。運動発達の知見をもとに、対象に応じた運動指導の考え方を提案できる。スポーツ指導者資格に必要な基礎知識を体系的に身につけている。

<授業の方法>

各テーマに沿った内容を資料やパワーポイントを用いて解説する。また、毎時間において、前時の講義内容について小テストを実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日常の授業における実践的な態度および小テストを含む課題提出（70%）。また、最終講義を終えた上でのまとめのテスト（30%）を実施し、以上を総合的に評価する。

<教科書>

教科書は使用しないが、各単元ごとに資料を配布する。

（公財）日本スポーツ協会（2019）公認ジュニアスポーツ指導員テキスト専門科目テキスト（公財）日本スポーツ協会

<参考書>

杉原隆・河邊貴子（2014）幼児期における運動発達と運動遊びの指導-遊びの中で子どもは育つ-ミネルヴァ書房

（財）健康・体力づくり事業財団（2008）健康運動指導士養成講習会テキスト（財）健康・体力づくり事業財団

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	体力とは	体力と運動能力について
3	健康とは	健康に関する概念について
4	からだ（形態）の発育発達	発育発達期の身体の発達について
5	発育発達期におけるケガの実態	発育発達期に多いケガや病気について
6	発育発達期の運動プログラム	コーディネーションとは
7	動作の発達と体力測定①	幼児体力指針と新体力テスト
8	動作の発達と体力測定②	歩く・走る・跳ぶ
9	動作の発達と体力測定③	投げる・捕る・体を支える
10	運動発達の捉え方①	体力・運動能力の発達と遊びの効用
11	運動発達の捉え方②	運動発達における年齢と性差
12	運動発達の捉え方③	運動コントロール能力における年齢と性差
13	老化と生活習慣①	フレイルとは？
14	まとめ	全時限の講義内容のまとめ

科目コード	62009		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	検査・測定と評価		担当者名	坂本 賢広			○		
			実務経験との関連	柔道整復師としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

体力や身体機能の評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解し、具体的に実技できるまでの能力を習得することをねらいとする。尚、本授業は一部オンデマンド教材等使用し行うため、PCまたはタブレットを準備の上、履修すること。

<授業の到達目標>

体力や身体機能の評価についてその意義と考え方を学び、具体的な評価による問題点の抽出までのプロセスを理解し、実践できる能力が身につくようになることを目標とする。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。各テーマに対してグループワーク・ディスカッションを行う。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 40%、実技・技術確認60%

<教科書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2025年4月30日第3刷発行）公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト [2022年カリキュラム対応] 第6巻 検査・測定と評価（公財）日本スポーツ協会

<参考書>

（財）健康・体力づくり事業財団（2008）健康運動指導士養成講習会テキスト<下>（財）健康・体力づくり事業財団

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション及び総論	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	スポーツ現場やトレーナーにおける検査・測定と評価の概論（1）	評価の目的、意義および役割、機能評価のプロセス
3	スポーツ現場やトレーナーにおける検査・測定と評価の概論（2）	機能評価に基づくアスレティックリハビリテーションおよびコンディショニングの目標設定、プログラム立案
4	検査・測定の手法（1）	姿勢・身体アライメント、筋萎縮の観察、計測の目的と意義、計測方法
5	検査・測定の手法（2）	関節弛緩性検査の目的と意義およびその検査測定
6	検査・測定の手法（3）	関節可動域測定の目的と意義および測定方法
7	検査・測定の手法（4）	筋タイトネスの検査測定方法
8	検査・測定の手法（5）	徒手筋力検査の目的と意義およびその検査方法
9	検査・測定の手法（6）	機器を用いた筋力、筋パワーおよび筋持久力の検査測定の目的と意義およびその検査測定方法
10	検査・測定の手法（7）	全身持久力の検査測定の目的と意義およびその具体的手法と測定指標
11	検査・測定の手法（8）	敏捷性および協調性の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
12	検査・測定の手法（9）	身体組成の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
13	検査・測定の手法（10）	一般的な体力測定（新体力テスト）の検査項目とその目的と概要
14	まとめ	検査・測定方法に関する総合討議

科目コード	38201	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅱ(応用) [PP]	担当者名	久田 孝			○			
		実務経験との関連	高等学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。						
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。

<授業の到達目標>

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。
2. 保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案することができる。
3. 教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。
4. 協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google Classroomを用いた質疑応答）
2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク）
3. 模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む）
4. 省察活動（まとめと振り返り）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

理解度テスト 20%、レポート（含指導案） 40%、マイクロティーチング 40%で総合的に評価する。マイクロティーチングでは受講態度も評価対象とする。とりわけ協働的活動における積極性・貢献度を重視して評価する。指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。レポートの内容については、提出後の授業でコメントし、フィードバックする。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月）中学校学習指導要領解説 保健体育編東山書房

文部科学省（平成30年7月）高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編東山書房

<参考書>

岡出美則他（2021）体育科教育学入門大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方自身の体験から保健体育科の捉え方を問い直す
2	よい体育授業とは	よい体育授業の条件
3	体育授業における教材・教具とは	教材づくり・教具づくりの意義と方法
4	体育授業の学習指導	教師の4大行動（ICTの利活用を含む）
5	保健分野の教材研究	教材の選定と作成
6	保健分野の授業づくり	グループワークによる指導計画の作成（アクティブラーニングの視点を含む）
7	保健分野の授業実践	模擬授業と省察
8	体育分野の教材研究	教材の選定と作成
9	体育分野の授業づくり	グループワークによる指導計画の作成（アクティブラーニングの視点を含む）
10	体育分野の授業実践①	模擬授業と省察
11	体育分野の授業実践②	模擬授業と省察
12	指導計画とは	指導計画の意義と方法
13	指導案を読み解く	実践事例から授業設計を捉え、単元計画・単位時間計画を作成する
14	指導計画の作成	単位時間計画の作成と改善、理解度テスト

科目コード	38201	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅱ(応用) [PP]	担当者名	坂本 康輔、岩田 知郎、木村 大			○			
		実務経験との関連	中学校教員、高等学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。

<授業の到達目標>

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。¥n2. 保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案し、授業実践することができる。¥n3. 教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。¥n4. 協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google form を用いた課題遂行） ¥n2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク） ¥n3. 模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む） ¥n4. 省察活動（まとめと振り返り）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 20%, 受講態度10%, レポート（含指導案） 40%, 模擬授業 30%で総合的に評価する。受講態度は模擬授業における評価対象とするが、とりわけ日頃の協働的活動における積極性・貢献度を重視して評価する。指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。課題の内容については、主にフィードバックを中心に行い、学習理解度を図る。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月）中学校学習指導要領解説 保健体育編東山書房
 衛藤 隆、友添 秀則 ほか（2022年3月20日）現代高等保健体育大修館書店
 岡出美則他（2021）体育科教育学入門大修館書店

<参考書>

杉山重利・高橋健夫・園山和夫（2009）保健体育科教育法大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	①授業の概要と進め方について¥n②良い体育授業とは何かを考える
2	学習指導要領を理解する①	学習指導要領が示している内容について理解を深める
3	学習指導要領を理解する②	学習指導要領の内容を調査し、意義を見つける
4	学習指導案の書き方について①	学習指導要領に基づいた指導案を作成する
5	学習指導案の書き方について②	単元計画の作成
6	運動領域の特性について①	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
7	運動領域の特性について②	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
8	運動領域の特性について③	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
9	運動領域の特性について④	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
10	運動領域の特性について⑤	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
11	運動領域の特性について⑥	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
12	模擬授業に向けた準備	授業実践における心構えと方法
13	模擬授業の実践①	マイクロティーチング
14	模擬授業の実践②	マイクロティーチング

科目コード	65047	区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	キャリアマネジメント I [中高保体教員]	担当者名	岩田 知郎、小川 雄太			○			
		実務経験との関連	中学校教員、高等学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

中学校・高等学校の教員採用試験を受験するために、体育の基本となる内容（スポーツのルール等）を習得する。（大学3年・4年で保健体育の教員採用試験を受験する予定の者のみを対象とする）

<授業の到達目標>

・教員の適性を確認し、他者と協働しながら学ぶ態度を身に付けることができる。¥n・様々なスポーツ種目の特性やルール等が理解できる。¥n・プレゼンテーション能力を身に付けることができる。

<授業の方法>

①与えられた課題（各種目のルール等）をグループごとで協力し合い調べ、プレゼンテーションをする。¥n②教壇に立つことを意識し、わかりやすいプレゼンができるようにする。¥n③グループで調べまとめることにより学生同士の相互の学びあいを大切にしてい。¥n④毎回、前時のミニテストとミニレポートを実施し、学びを深める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・グループ活動 20%、レポート得点 30%、毎回のミニテスト 20%、最終テスト 30%

<教科書>

2025年9月1日27年度 中高保健体育の完全攻略時事通信社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業ガイダンス	授業内容を理解する¥nグループの確認・分担確認
2	オリンピック¥n先輩からのアドバイス	教員採用試験について（先輩からのアドバイス） ¥nオリンピックについて学ぶ
3	器械運動	器械運動について理解する¥n前時のミニテスト実施
4	水泳	水泳について理解する¥n前時のミニテスト実施
5	体づくり運動¥n球技：ベースボール型	体づくり運動、球技について理解する¥n前時のミニテスト実施
6	陸上競技	陸上競技について理解する¥n前時のミニテスト実施
7	陸上競技	陸上競技について理解する¥n前時のミニテスト実施
8	球技：ゴール型	球技について理解する¥n前時のミニテスト実施
9	球技：ゴール型	球技について理解する¥n前時のミニテスト実施
10	球技：ネット型	球技について理解する¥n前時のミニテスト実施
11	球技：ネット型	球技について理解する¥n前時のミニテスト実施
12	武道	武道について理解する¥n前時のミニテスト実施
13	ダンス	ダンスについて理解する¥n前時のミニテスト実施
14	まとめ確認テスト	これまでの授業のまとめ、確認テストを実施する

科目コード	65047	区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	キャリアマネジメント I [企業]	担当者名	戸田 晃大,佐藤 典子			○			
		実務経験との関連	担当者の中で一般企業経験者、キャリアコンサルタントとしての実務経験がある教員が進路選択、キャリアプランなどについて指導する。						
配当年次	2Year	配当学期	後期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

早期化している就活に相対すべく、企業就職希望で意欲の高い学生向けに自己理解・企業理解を促進する

<授業の到達目標>

「視野・視座を上げる」「チャレンジ精神を培う」を目標とし、就活時にはプライム上場企業や著名400社へのエントリーができる状態にする

<授業の方法>

教員、キャリアセンター職員、就職支援会社を中心としてインプットの座学と、グループワークや個人ワーク、ロールプレイなどのアウトプットを組み合わせる

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講意欲・態度40%、課題レポートなどの提出物60%

<教科書>

随時印刷物を配布するか、オンラインで資料を共有する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	就活のリアルを知るー理想と現実のギャップを今の時点で知る
2	自己理解①経験の棚卸し	自分の内的キャリアを探るー自分の過去の経験を棚卸して、行動と思考を振り返る
3	自己理解②強みの発見	無自覚な自己の「強み」を言語化するー他己分析を通し、自分の強みを客観的に探る
4	自己理解③再現性の発見	再現性の発見をするー第3回で出した強みを能力に言い換える
5	自己理解④価値観の言語化	自分が力を発揮する条件を言語化するーモチベーショングラフ分析/価値観ランキング/環境条件の言語化をする
6	仕事理解①業界の構造理解	業界・ビジネスモデルの基本を知るー大手と中小の違い/ベンチャーとは/外資系を選択肢に入れるか/ブラック企業とは
7	仕事理解②職種理解	仕事の中身を知るー仕事の1日の流れを設計する
8	仕事理解③企業を深く知る	浅い企業研究からの脱却ー1社を深掘りし、強み・競合・戦略を探る
9	仕事理解④社会人から学ぶ職業観	リアルな職業観を得るー卒業生をインタビューして、働くイメージを膨らませる
10	接続①強みX仕事	自分の強みが活きる業界・職種を見つけるー企業で求められる力と自分の強みをマッチングする
11	接続②ストーリー化	企業に伝わる自己PRを作成するーこれまでの深い自己理解を相手に伝わる構造に翻訳する
12	選考対策①エントリーシート対策	実際の選考で通過する文章を作成する
13	選考対策②面接対策	通過する面接を体感するー評価基準を知って面接を受けるトレーニング
14	総合アウトプット	自分の軸を確定させ、外でも再現できる状態にするー自分についてのプレゼンテーション、目標業界や企業を設定し、今後の行動計画を立てる

科目コード	65047	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅠ [公務員]	担当者名	横内 浩平			○			
		実務経験との関連	担当者の中で民間教育機関（公務員予備校等）教員としての実務経験がある教員が進路選択、キャリアプランなどについて指導する。						
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公務員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな採用試験について十分理解しておく必要がある。本科目では、警察官・消防士・刑務官などの公安系公務員を目指す学生がそれぞれの職種について学び、公務員としての心構えを身につけることをねらいとする。また実際に出題される試験問題を解説し、実践力を身につけることを目的として開講する。

<授業の到達目標>

1. 公務員という仕事を知り、また採用試験における「頻出分野」の理解ができるようになる。2. 3年次から開講される「公務員対策講座」を受講するための数学的基礎力を身に付けている。3. 採用試験に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

<授業の方法>

1. 講義（配布プリント、パワーポイントを使用し授業を進める）2. グループワーク（授業中に出される複数の解き方がある問題に関する教え合い）3. 授業で解く問題が得意な学生に対して、難易度の高い問題を準備しclassroomなどを活用して解説する。
※一部の問題についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト 35%、授業態度 15%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	公務員という仕事の理解・計算演習（1）	公務員試験全般について学ぶ。分数の計算
3	計算演習（2）	文字式
4	計算演習（3）・職種研究（1）	連立方程式、職種研究 警察官編
5	数的処理分野（1）	速さⅠ（旅人算・通過算）
6	数的処理分野（2）・職種研究（2）	速さⅡ（流水算・時計算）・職種研究 刑務官編
7	数的処理分野（3）	割合Ⅰ（相当算・売買算）
8	数的処理分野（4）・職種研究（3）	割合Ⅱ（濃度算・仕事算）・職種研究 自衛隊編
9	数的処理分野（5）	方程式・不等式Ⅰ（和差算・過不足算）
10	数的処理分野（6）・職種研究（4）	方程式・不等式Ⅱ（分配算・年齢算・平均算）・職種研究 海上保安官編
11	数的処理分野（7）	整数（約数・倍数・記数法）
12	数的処理分野（8）・職種研究（5）	確率Ⅰ（順列・組合せ）・職種研究 事務職系
13	数的処理分野（9）	確率Ⅱ（場合の数・確率）
14	数的処理分野（10）・職種研究（6）	規則性（数列・規則性の発見・計算パズル） 職種研究 その他の職種

科目コード	40120	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	サッカー [PP・PS男子用]	担当者名	桂 秀樹			○			
		実務経験との関連	プロスポーツチーム選手、ヘッドコーチとしての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

サッカーは世界で最も親しまれているスポーツのひとつであり、ボールとゴールさえあれば誰でも楽しめるシンプルさが魅力である。しかし、足でボールを扱う競技特性から、経験者と未経験者のあいだで技術差が生じやすい。本授業では、ドリブルやパスなどの基礎的なボール扱いの技術を段階的に身につけ、誰もがゲームを楽しめるようになることを目指す。また、様々なゲームの手法を通して動き方や基本的な戦術を理解し、サッカーというスポーツへの理解を深めていく。

<授業の到達目標>

本授業では、サッカーの基礎的な技術を身につけるとともに、サッカーを通じて仲間と楽しく関わり合える指導ができる力を養う。小人数のゲームや基本的な戦術理解を通して、技術の巧拙にかかわらず誰もが楽しめる場づくりを学び、サッカーをコミュニケーションの手段として活用できる指導方法を身につけることを目標とする。

<授業の方法>

幅広くコミュニケーションが取れるように、授業ごとにグループを編成し、授業の最後にはゲームを行う。受講者の体調や怪我の有無に応じて無理のない範囲で活動を行う。また、熱中症予防として適宜給水休憩を設ける。怪我が発生した場合は応急処置を行い、必要に応じて連絡・報告をする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・参加状況（50%）、指導計画書の作成（30%）、指導実践（20%）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法
2	基礎技術のトレーニング(1)	ボールフィーリング、ボールタッチ、ドリブル
3	基礎技術のトレーニング(2)	各種キック、パス、トラップ
4	GKのトレーニング	ゴールキーパーについて学ぶ
5	応用技術のトレーニング	ターン、ボールキープ、フェイント
6	ボールポゼッション(1)	少人数でのボールポゼッション
7	ボールポゼッション(2)	多人数でのボールポゼッション
8	個人戦術とグループ戦術	1対1、2対1、2対2
9	グループ戦術	3対2、3対3、4対4
10	コーチング、指示	グループ戦術の中で味方を指示してコミュニケーション取りながら、様々な場面に対応してみる。
11	指導実践およびリーグ戦①	各チームでのウォーミングアップ等での指導実践①リーグ戦の進め方、チームとしての戦い方。
12	指導実践およびリーグ戦②	各チームでのウォーミングアップ等での指導実践②リーグ戦の進め方、チームとしての戦い方。
13	指導実践およびトーナメント戦①	各チームでのウォーミングアップ等での指導実践③トーナメント戦の進め方、チームとしての戦い方。
14	指導実践およびトーナメント戦②	各チームでのウォーミングアップ等での指導実践④トーナメント戦の進め方、チームとしての戦い方。

科目コード	40104		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ハンドボール I (基礎)		担当者名	仙波 慎平			○		
			実務経験との関連	日本代表選手、実業団チーム選手、日本ハンドボール協会情報科学委員会委員、アナリストとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ハンドボールは、ヨーロッパで発展した、スピーディーでダイナミックなプレーが人気のボールゲームである。走・跳・投という基本的な運動要素がバランスよく含まれており、発達段階にある子供に対しても有用な教材として学習指導要領にも取り上げられている。本講義では、ハンドボールの基礎、専門的運動技能と実技指導能力を学習する。(1クラスの定員50名とし、超過した場合は抽選とする。)本授業は実技科目であるため、受講者の安全確保を最優先とし、以下の点に留意して実施する。1. 安全配慮に関する事項・授業開始前にウォー

<授業の到達目標>

ハンドボールのルールと競技特性を理解し、ゲームを楽しむことができること、ボールゲームとしてのハンドボールの成り立ちに着目した上で、ゲームに必要な基礎的技術、戦術を身につける。

<授業の方法>

実技を通して、ハンドボールを学習し、随時その理論的背景を説明する。また、資料、映像等を必要に応じて活用し講義授業をすすめていく。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、技術・戦術遂行能力・運動学習能力 30%、実技テスト20%

<教科書>

笹倉清則(2003)「Tactics of Handball in The World」財団法人日本ハンドボール協会

<参考書>

酒巻清治(2012)「基本が身につく ハンドボール 練習メニュー200」池田書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンスおよびルール説明	授業の説明、ルール説明、ハンドボールの映像観察
2	個人技術の習得	パス・キャッチ技術の習得
3	個人技術の習得(2)	シュートの種類、基本動作の習得
4	原始的ゲーム	基本的ルールの説明、少人数での速攻ゲーム
5	対人的技術・戦術(1)	1対1状況における攻撃と防御の基礎スキル、少人数ゲーム(1)
6	対人的技術・戦術(2)	1対1状況における攻撃と防御の応用スキル、少人数ゲーム(2)
7	グループ戦術(1)	2対2状況における攻撃と防御の基礎スキル、ゲーム(1)
8	グループ戦術(2)	2対2状況における攻撃と防御の応用スキル、ゲーム(2)
9	ゲーム(1)	ゲーム実施およびその運営
10	ゲーム(2)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(1)
11	ゲーム(3)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(2)
12	ゲーム(4)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(3)
13	ゲーム(5)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(4)
14	ゲーム(6)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(5)

科目コード	40101	区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	バスケットボール I (基礎)	担当者名	國友 亮佑、西垂水 美桜			○			
		実務経験との関連	事業団スポーツチームの選手・ストレングス&コンディショニングコーチとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間とにも楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとする。

<授業の到達目標>

1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動を行うことができる。¥n2 バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することができる。¥n3 個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

<授業の方法>

実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストレーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 40%、実技テスト40%、知識レポート20%¥n

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	基本技術の習得（1）	ボールハンドリング技術
3	基礎技術の習得（2）	ドリブル技術の練習
4	基本技術の習得（3）	パス技術、キャッチング技術
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習①（レイアップシュート）
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習②（ゴール下、セットシュート）
7	基本技術の習得（6）	シュート技術の練習③（ジャンプシュート）
8	基本技術の習得（7）	リバウンド、スクリーンアウト
9	基本技術の習得（8）	ディフェンススキル、フットワーク
10	応用技術の習得（1）	2メンレイアップシュート、ミートシューティング
11	応用技術の習得（2）	3メンレイアップシュート、アウトナンバー
12	実践技術の習得（1）	ルールの理解、コートの理解、3対3
13	実践技術の習得（2）	リーグ戦①（5対5）
14	まとめ	実技試験

科目コード	40102		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バレーボール I (基礎) [他学科 + PP3年以上用]		担当者名	十河 直太			○		
			実務経験との関連	専修学校専門課程科目担当者、大学スポーツサービスルームスタッフとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは、簡単なパスゲームからコンビネーションプレーまで、多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは構造的特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。本授業では、基本的な技能、ルール、フォーメーション等についての理解を深めると共に、基本的な技能を高め、ゲームにおける相互の連係プレーを成功させることにより、仲間とともに、バレーボールの持つ楽しさや喜びが味えるようにする。

<授業の到達目標>

パスの基本、トスの基本、スパイクの基本を習得させ、3回使ったゲーム形式が展開出来ることを目標とする。直上オーバーハンドパス、直上アンダーハンドパスを30秒間落とさず行うことができる。

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや理論を理解させ、授業を進めていく。コート設営については安全に配慮した上で、始業前までに自発的に行うこと。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 60%、実技テスト 40%

<教科書>

特に指定なし

特に指定なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業内容の説明と導入	バレーボールの特性の理解
2	バレーボールの歴史について	今日までのバレーボールの生い立ちと現状の理解
3	バレーボールの特性に応じたウォーミングアップ	方法の理解と実践
4	基本的な技能について（1）	スパイクおよびブロック
5	基本的技能について（2）	レシーブ、セット、サーブ
6	基本的技能の複合練習（1）	移動パスやグループ練習
7	基本的技能の複合練習（2）	三段攻撃
8	基本的技能のまとめ（1）	複合練習と実技テスト
9	基本的技能のまとめ（2）	複合練習と実技テスト
10	ルールと審判法	ルールについての理解と審判方法の具体
11	試合形式（1）	リーグ戦
12	試合形式（2）	リーグ戦
13	試合形式（3）	リーグ戦
14	まとめ	総合的レポート

科目コード	40119	区 分	コア			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	ラグビー	担当者名	小村 淳、本間 正悟			○			
		実務経験との関連	日本代表選手、実業団チーム選手、ヘッドコーチとしての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ラグビーとは、2つのチームが競技規則及びスポーツ精神に則り、ボールを持って走り、パス、キックを使いグラウディングして、できる限り得点を多くあげたチームがその試合の勝者となる。試合を行う為の基本スキルを実技として行う。

<授業の到達目標>

基本スキルのランニング、ハンドリング、キック、コンタクト、ユニット（スクラム/ラインアウト/キックオフ）から指導し、ルールに基づきボールゲーム形式でラグビーを理解させることができる。

<授業の方法>

実技学習では、グループに分かれてスキルごとにフォーカスポイントを伝え実施する。ルールやゲーム理解については講義や映像での説明を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（積極性・協調性・相互促進性など）30%、基本スキルの評価40%、応用スキル30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業内容説明	ラグビー競技の説明、授業計画説明、注意事項説明
2	個人技能 (1)	ランニングスキル、ハンドリングスキル
3	個人技能 (2)	ランニング、ハンドリング応用スキル
4	ボールゲーム	ルールの説明と実施
5	個人技能 (3)	キックと個人技能 (1) (2) のレビュー
6	個人技能 (4)	キック応用、コンタクトスキル
7	キッキングゲーム	ルール説明と実施
8	ゲーム	ボール&キッキング
9	集団技能 (1)	スクラムの説明と実施
10	集団技能 (2)	ラインアウトの説明と実施
11	集団技能 (3)	キックオフ、ドロップアウトの説明と実施
12	集団技能 (4)	スクラム、ラインアウト、キックオフ応用
13	ゲーム (1)	ルール説明と実施
14	まとめ、ラグビー競技の理解と映像での試合観戦	

科目コード	40121		区分	体育実技			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ソフトボール [PP・PS女子+他学科女子用]		担当者名	山本 清人			○		
			実務経験との関連	担当者の中で高等学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの基本的な技術（例えば、ボールの持ち方、投げ方、バットの握り方、グラブの操作方法など）を学ぶ。また、守備の基本（投球、守備）から攻撃の基本（打撃、走塁）などの個人技術の習得を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。本授業は履修人数制限を設けています。※履修者が制限を超えた場合は受講日を調整する場合があります。

<授業の到達目標>

- 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。
- 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。
- 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとする。

<授業の方法>

実技を中心にグラウンドで実践指導を行う。バッティング・守備及びピッチングなどの理論が必要なときは随時説明をする。1. グループワーク（予習内容に関する確認） 2. 実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示） タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。 3. ディスカッション（問題提示に対する回答） 4. 省察活動（まとめ）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、予習10%、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

<教科書>

なしなしなし

なしなしなし

財団法人日本ソフトボール協会「ソフトボール指導者教本」日本体育社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	指導者のあり方（ガイダンス）	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの歴史	ソフトボールの誕生・発展、ソフトボール情勢
3	ソフトボールの技術と指導法（1）	投球の基礎技術 投球モーションのフォームと特徴
4	ソフトボールの技術と指導法（2）	守備の基礎技術 送球・捕球、守備位置と守備範囲
5	ソフトボールの技術と指導法（3）	守備の基礎技術 ポジション別の技術
6	ソフトボールの技術と指導法（4）	打撃の基礎技術
7	ソフトボールの技術と指導法（5）	バントの基礎技術
8	ソフトボールの技術と指導法（6）	走塁の基礎技術
9	集団技術の理解（1）	ポジション別守備練習と関係プレー
10	集団技術の理解（2）	試合形式シートバッティング
11	総合的ゲーム展開（1）	紅白戦で実戦練習（1）
12	総合的ゲーム展開（2）	紅白戦で実戦練習（2）
13	総合的ゲーム展開（3）	紅白戦で実戦練習（3）
14	打撃系及び守備系実技到達度確認	試合形式でバッティングテスト Yn試合形式でポジション別守備テスト

科目コード	40202	区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	バレーボールⅡ(応用)	担当者名	坂本 博秋			○			
		実務経験との関連	実業団チーム指導者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは集団のスポーツであり、集団による協力が重要である。球技種目履修の意義は、球技種目における個人技術の向上、技術、戦術の理解や、体力トレーニングの方法を学ぶだけでなく、この集団による協力の重要性を、ゲームを通して肌で感じることにある。また単に技術向上をねらいとするだけではなく、将来指導者、教員を目指すことを想定し、指導法についても講義する。なお、バレーボールⅡ（応用）は、バレーボールⅠ（基礎）を修得していることが履修の条件となる。

<授業の到達目標>

スパイク技術、レシーブ技術、ブロック技術、サーブ技術を向上させると同時にそれらを指導できる力を身につけることを目標とする。ともに日本バレーボール協会公認コーチ1の受験資格取得を目指す。

<授業の方法>

日本バレーボール協会公認コーチ資格取得カリキュラムに沿って展開していく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 40%、実技テスト及びレポート 60%

<教科書>

日本バレーボール協会（2017年2月10日版）コーチングバレーボール（基礎編）大修館書店

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	内容説明と導入	指導者資格について
2	指導者の在り方	指導者とは
3	バレーボールの歴史	バレーボールの生い立ちと現状の理解
4	競技規則と審判法（6/9）	競技規則の理解と審判トレーニング
5	ビーチバレーボールの指導法と競技規則（1）	技術理解と戦術について
6	ビーチバレーボールの指導法と競技規則（2）	練習方法と練習計画
7	グループディスカッション	コーチングについて
8	指導実習（基礎Ⅰ）と救急法（1）	基礎技術の指導（パス、アタック、ブロック）と救急法実習
9	指導実習（基礎Ⅰ）と救急法（2）	基礎技術の指導（サーブ、レセプション）と救急法実習
10	練習計画の立案	練習方法の理解と配分について
11	ウォーミングアップとクーリングダウン	方法の理解と実践
12	初心者導入法（2/4/6/9）	導入方法の理解と練習方法及び指導実習
13	フォーメーション（基礎）	フォーメーションの理解と実践
14	実技試験とレポート	総合実技テスト及びレポート

科目コード	62008		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	健康管理とスポーツ医学 [資格希望者用]		担当者名	河合 洋二郎			○		
			実務経験との関連	現職の内科医・スポーツドクターとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスリートにみられる内臓器官などの疾患では、疾患の病態、症状、対応策、処置、予防措置について理解させること。感染症に対する対応策では、スポーツ現場および海外遠征時に注意すべき感染症の種別、病態、症状、対応策、処置、予防策について理解させること。

<授業の到達目標>

アスリートにみられる病的現象では、病的現象（オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群など）の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する対抗策、処置、予防措置について学ぶことをねらいとする。この他、スポーツ選手にみられる摂食障害、減量障害、飲酒、喫煙などの問題点について学ぶことをねらいとする。特殊環境のスポーツ医学では、高所、低圧、高圧、暑熱環境などでの運動時における生体反応、順応、そしてそれらの環境下での障害について学ぶことをねらいとする。年齢・性別による特徴では、女性、高齢者、発育

<授業の方法>

教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

振り返りレポート10%、定期試験90%

<教科書>

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト④ 健康管理とスポーツ医学」日本体育協会

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (1)	循環器系疾患（スポーツ心臓、不整脈、虚血性心疾患、Marfan症候群など）呼吸器系疾患（慢性肺疾患、運動誘発性喘息など）
2	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (2)	消化器系疾患（運動時の腹痛、消化管出血、下痢、急性肝炎など）血液疾患（貧血など）皮膚疾患（胼胝腫、摩擦水疱、白癬など）
3	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (3)	腎・泌尿器疾患（運動性蛋白尿、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿など）代謝性疾患（糖質代謝異常、脂質代謝異常、糖尿病、肥満など）
4	感染症に対する対応策 (1)	呼吸器感染症（上気道感染症、インフルエンザ、伝染性単核球症、重症急性呼吸器症候群など）血液感染症（A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎、HIV免疫不全ウイルスなど）
5	感染症に対する対応策 (2)	皮膚感染症（細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症など）ウイルス性結膜炎（咽頭結膜炎など）
6	感染症に対する対応策 (3)	海外遠征時に注意すべき感染症（SARS、マラリア、旅行者下痢症、デング熱など）各競技別ルールにみられる感染症対策
7	アスリートにみられる病的現象など (1)、小テスト	オーバートレーニング症候群・突然死・過換気症候群、小テスト
8	アスリートにみられる病的現象など (2)	摂食障害・減量障害・飲酒・喫煙の問題点
9	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (1)	（生体の反応と順応、各環境でみられる障害とその処置、予防方法など）時差（時差に対する反応と順応、時差に対する対策）
10	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (2)	海外遠征時の諸問題（健康管理、環境管理、その他）
11	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (3)	女性のスポーツ医学、高齢者のスポーツ医学、成長期のスポーツ医学
12	内科的メディカルチェック (1)	メディカルチェックの意義と必要性・対象別メディカルチェックの内容。メディカルチェックにおける検査項目
13	内科的メディカルチェック (2)	運動負荷試験の目的と方法・運動負荷試験の実際。運動負荷試験結果の判定基準。
14	ドーピングコントロール	アンチドーピングの目的、ドーピングの定義、禁止される物質の種類。注意すべき市販薬、事前申告を必要とする薬物、ドーピング・コントロール・ステーション同伴時の留意事項。

科目コード	65019		区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	公務員と法		担当者名	平野 正樹			○		
			実務経験との関連	公務員（大蔵省官僚）としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	3年	配当学期	後期集中	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	2単位

<授業の概要>

本科目では、市場機構の不完全性である市場の失敗、中でも公共部門の役割についての経済学的かつ制度論的な内容を理解することを目的とする。これを基に現代の経済的かつ財政的課題についてのケース・スタディーを通じて、公的主体の意義を学ぶ。そして、本科目を受講した学生が国内外の経済・財政問題に対して、コメントできるようになることを目途に授業を展開する。

<授業の到達目標>

授業を通じて、経済における「公的部門」と「民間部門」の相違とそれぞれの主体である「公」「民」の行動目的についての理解を図る。また、市場経済を中心とした経済社会で生じる諸問題(市場の失敗)について、その原因を分析するとともに国家財政や地方財政が抱える制度論的課題にも言及する。なお、シラバスの内容は前期開講の「公務員と法」と同様であるが、配布資料などを変えるとともに、講義内容の高度化で対応したい。

<授業の方法>

主として黒板を活用

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題(小テスト)80%と授業態度等20%で成績評価をする。なお、課題(小テスト)については模範解答を提示・説明する。

<教科書>

なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	市場経済とパフォーマンス 経済の仕組みと公的部門	経済の仕組み 市場経済と公共部門の役割 経済学と経営学との相違など
2	公共経済学と財政学	市場の失敗、市場における外部性と公共財の存在
3	財政学と財政の三機能(I)	財政学とは何か 財政学の誕生と発展
4	財政学と財政の三機能(II)	資源配分機能 所得再配分機能 経済安定化機能
5	国と地方の財政の姿	国家財政・地方財政の歳入・歳出予算 予算の編成過程など
6	公共サービスと財政のかかわり(I)	公共財の性質 公共財供給の効率性
7	公共サービスと財政のかかわり(II)	多数決と公共サービス 公共財の最適供給と公平な負担
8	租税の基礎理論	租税原則と租税体系 効率と公平のトレード・オフ
9	所得課税	所得税と住民税の仕組み
10	消費課税	消費税の仕組み 従価税と従量税
11	資産課税	固定資産税と相続税の仕組み
12	国債と地方債	国債と地方債の種類 公債の負担
13	裁量的な財政政策とマクロ経済	乗数効果 財政政策の有効性
14	地方交付税と地域間所得再配分	地方交付税と国庫支出金の仕組み